



令和5年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 小野寺 俊 幸

新年あけましておめでとうござ
います。

組合員の皆様におかれましては、
日々営農に更に邁進されておられ
ることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が
一丸となり地域農業の振興や地域
社会の発展に向け、日頃より多大
なご尽力をされていることに対し
まして、改めて敬意と感謝を申し
上げる次第であります。

昨年の本道農業につきましては、
春先は天候に恵まれ地域によって
少雨の影響が見られたものの、そ
の後は順調に推移しておりました。
ただ、6月の降雪、8月の記録的
な大雨、9月の台風により、一部
地域、作物によっては、生育に大
きな影響が出たものがありました
が、収穫作業は総じて順調に進み、
天候の影響を大きく受けた作物を

除いては平年作を確保することが
できました。

しかしながら、新型コロナウイルス
ルスとの戦いが長期化し、各農畜
産物の消費は依然として低迷して
おります。

さらに、国際紛争や急激な円安
の進行による飼料・肥料をはじめ
とした生産資材の高止まりが、農
業経営に与える影響は甚大であり、
北海道・全国連とも連携し、JA
グループ北海道としてしっかりと
その対応を図って参ります。

コロナ禍、国際紛争によって、
世界の食料需給事情が一変しまし
た。輸出制限を行い、自国の食料
を確保する各国の動きが活発化し、
世界的な人口増加による食料不足
問題など食料争奪戦がすでに始
まっています。我が国の食料を安

定的にどう確保するのか。今こそ
大いに食料安全保障の国民的議論
が必要となっております。

JAグループ北海道は、日本の
食料基地であるという使命感に立
ち、食料の安定生産・安定供給と
農畜産物の需要拡大を両輪として
引き続き取り組んで参ります。

今年も、第30回JA北海道大会
の実践2年度目となります。

決議された将来ビジョンである、
「北海道550万人と共に創る『力
強い農業』と『豊かな魅力ある地
域社会』の達成」の実現に向け、様々
な課題を解決する必要があります。

農業を取り巻く環境は厳しい状
況が続いておりますが、このよう
な状況であるからこそ、協同組合
運動の原点に立ち返り、相互扶助
の精神に基づき互いに協力し、力
を合わせこの難局を乗り越える必
要があります。

また、消費者に対しては、JA
グループが提唱する、自国の国民

が消費する食料はできるだけ自国
で生産するという「国産国産」に
対する理解を求め、消費者の行動
変容に結びつけていくことが望ま
れます。

このためには、組合員、消費者
との「対話」が重要となりますので、
組合員・役職員が一丸となっていっ
かりと取り組んで参りましょう。

結びになりますが、本年は卯年
です。卯は穏やかで温厚な性質で
あることから、「家内安全」、また、
その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」
を象徴するものとして親しまれて
きました。

他にも「植物の成長」という意
味もあり、新しいことに挑戦する
のに最適な年と言われています。
この謂われにあやかり、本年が豊
穡の年となること、新型コロナウイルス
の1日も早い終息と皆様のご
健勝をご祈念申し上げ、年頭のご
挨拶といたします。